

## 実践報告

# 札幌市立前田中央小学校

継続研究 4 年目

### (1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習に関する研究」

○「楽しく動く」前田中央人の創造

### (2) 実践の内容

【実践①】「アイヌ民族の方々の生活と文化」について

#### ○ ねらい

- ・アイヌ文化に直接触れる体験的な活動を通して、アイヌ民族の生活や文化に対する関心を高める。
- ・アイヌ民族の衣食住や文化、遊びについて自分なりに調べたいことを見付ける。

#### ○ 学習内容

- ・ムックリやトンコリの演奏や歌の鑑賞と踊りの体験
- ・アイヌ民族の伝統的な衣装の着用体験
- ・小グループによるアイヌ民族の方との交流
- ・アイヌ民族の遊び道具を用いた体験活動

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・札幌ウポポ保存会の皆さんをお招きしての体験的な活動では、学校でムックリを40本購入し、さらにウポポ保存会の方にもムックリを用意していただいた。一人一人がムックリを手にとって、演奏にも挑戦した。音を鳴らそうと熱心に取り組んでいたが、なかなか鳴らすことができなかった。その場で音を鳴らすことができたのは数名だけだったが、自分でもやってみることで、アイヌ民族の文化に対する興味を一層もつことができた。交流会後にも休み時間などを使って自分たちで練習する児童もいた。
- ・また、アイヌ民族の子どもの遊び道具も持ってきていただくことができた。実際に遊ぶ体験ができ、子どもたちは楽しみながら、アイヌ民族の遊びに含まれている意味を考えたり、感じたりすることができた。



- 小グループでアイヌ民族の方と交流する場を設定した。少人数で交流することで、自分もった疑問を素直に表現することができた。質問したことに対して丁寧に答えていただくことで、疑問を解決することができた。それによりさらに新たな疑問をもつ子もいた。
- 上記のような活動を通して、その後の追究活動の意欲を高めることができた。また、学級によっては、その後の児童集会にアイヌ民族に関する店を出すなど、学習がつながっていた。
- 参観の授業として行うことで、多くの保護者にもアイヌ文化に触れる機会を設けることができた。



## ② 課題

- 札幌ウポポ保存会の方と児童一人一人が直接語り合えるよう小グループ交流を設定したことで、児童に多くのことを肌で感じ取らせることができ、課題づくりに大いに役立った。しかし、一度の交流では、子どもが満足できる時間を取ることが難しい。何度か触れ合う機会を設けることができると、課題づくりだけでなく、調べていく中で生まれた疑問を解決するなどの効果も期待できる。



## ③ 提言「人権教育のすすめ」

- アイヌ民族の方と直接触れ合うことで、普段、自分たちが接している考え方とは違う視点に触れることができ、大変有意義であった。アイヌ民族の「共生」の自然観、ウレシパ（育て合う）という言葉とその根底に流れる考え方に触れることは、自分とは違う立場の人を理解していくスタートとして有効である。そのことがすぐに人権意識の高まりや理解の深まりにはつながらないが、将来にわたり「人権」を考える上で、直接アイヌ民族の方に触れ、話を聞いたり自分の考えを伝えたりすることは、ベースとなっていく。異なる文化をもった「人」との触れ合いが「人権」を考える第一歩となった。